

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年8月22日(月)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年8月22日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【純水タンク脇にある非常用高台炉注水ポンプ(C)吐出流量調整不可について】 当社社員が、純水タンク脇にある非常用高台炉注水ポンプの手動起動試験に伴い、ポンプ(C)を起動し流量を増やすための操作を実施したが、吐出流量計の指示が実際に操作した流量より高い値を示し流量調整ができないことを確認。 また、当該ポンプを停止したが、継続して吐出流量計の指示が高い値であったため、計器を打診したところ指示値が「ゼロ」へ降下したことから、吐出流量計の動作不良と推定。 炉注設備に関しては、待機中の非常用原子炉注水系ポンプが1系列以上動作可能であり、実施計画違反には該当しない。 今後、当該流量計を点検・修理予定。</p>	G II	8月17日
2	<p>【物揚場排水路ゲートの遠隔監視システムにおける電源不具合について】 運転員が、物揚場排水路にあるゲートの遠隔監視システムにおける電源不具合の警報発生を確認。 現場において、ゲート電源およびゲートの開閉操作は可能であったが、ゲート脇に設置していた配電盤内の遠隔監視システムの電源が「切」であることを確認した。 調査の結果、当社社員が、弁別型簡易放射線モニタの設置により不要となった旧簡易放射線モニタおよび記録計を 除却する際、「切」とした配電盤の電源の負荷に、当該遠隔監視システムが入っていたことから、遠隔監視できなかったことが判明。 その後、配電盤内の電源を「入」にして、遠隔監視システムが復旧したことを確認。 今後、原因調査および再発防止対策を検討。</p>	G II	8月17日